

東日本大震災被災地の子どもたちに 学用品（文房具）を届ける活動にご協力ください

■ 呼びかけ人

東北大学・大学院環境科学研究科 准教授 浅沼宏
宮城教育大学 理事・副学長 見上一幸
岩手大学 理事・副学長 玉真之介
奈良教育大学 副学長 加藤久雄（ASPUivNet 事務局）
持続可能な開発のための教育 10 年推進会議 代表理事 重政子
株式会社教育新聞社 代表取締役社長 大山高明
日本持続発展教育推進フォーラム 事務局長 齊藤英行
ユネスコ・アジア文化センター 事務局長 島津正数

〔順不同〕

東日本大震災により大きな被害を受けた被災地の児童・生徒の学校と家庭での学びを支援するため、私たちは学用品（文房具）のご提供・送付について、関係のみなさまのご協力を呼びかけます。ご協力をお願いいたします。

● 必要な文房具

小学生用： 教科別学習ノート、自由帳、連絡帳、鉛筆（2B、HB）、
鉛筆削り（小型）、消しゴム、筆箱

中学生用： 学習用ノート、シャープペンシル、筆箱

*いずれも未使用のものに限ります。

● 必要数

当面のところ、必要数に上限はありません。できるだけ多くの文房具を被災地の子ども達にお届けしたく、ご協力をお願いします。

● いつまでに

被災地では、状況に応じて、学校の始業時期を検討しています。報道によると宮城県では、4月8日、仙台市の大半4月11日、気仙沼市4月21日、南三陸町5月9日以降。岩手県では4月中の再開を目指すとされています。学校の開始に間に合うようお送りいただければ助かりますが、子どもたちが学習する限り文房具を消費しますので、その後も当面の間、継続的なご支援をいただくと助かります。

● 送付先

被災地への支援をより効率的に行うために、東北大学・大学院環境科学研究科、宮城教育大学、岩手大学の3大学が、中間支援地としての役割を分担し、みなさまに送っていただいた文房具を整理・取りまとめをして被災地に届けますので、下記、ご確認ください。

	あて先（中間支援地）	支援先
中間支援地 ①	〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-20 東北大学・大学院環境科学研究科 浅沼 宏 宛 TEL&FAX 022-795-7399 メール asanuma@ni2.kankyo.tohoku.ac.jp	宮城県気仙沼市教育委員会へ配送します。気仙沼市教育委員会から各学校へ配布します。
中間支援地 ②	〒980 宮城県仙台市青葉区荒巻青葉 149 宮城教育大学 研究連携推進課 芳賀 茂 宛 TEL 022-214-3329 FAX 022-214-3342 メール kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp	宮城県内（気仙沼市以外）の各教育委員会と相談しながら被災地の学校に配布。東北大学と調整しますので宮城県一般とお考えいただいても結構です。
中間支援地 ③	〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3 丁目 18-8 岩手大学 ESD 円卓会議事務局 玉 真之介 宛 TEL 019-621-6554 FAX 019-621-6928 メール ginga@iwate-u.ac.jp	岩手大学が事務局とつとめる「幼小中高大専ESD円卓会議」で被災状況を把握して岩手県内の被災地の各学校に配布します。

● お願い

応援のメッセージ、寄せ書きなど、大歓迎です。今後の交流につながる契機になるよう、差し支えなければ、学校、支援者の連絡先をいれてください。ユネスコスクールからのご支援の場合は、その旨、お書き添えください。

- 着払い宅配便は受け付けられませんので、ご協力お願いします。
- 送付する封筒、箱には「東日本大震災救援物資在中」と明記してください。
- 箱には、「品名」を大きく箱の上面、側面に書いてください。
- 箱の重量があまり重くならないようご注意ください。

■ お問い合わせ窓口

財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

事業部 柴尾・中田・小澤(弘教)

TEL 03-3269-4559 FAX 03-3269-4510 メール esd@accu.or.jp

東日本大震災被災地の子どもたちに学用品(文房具)を届ける活動にご協力ください

ユネスコスクールと支援先について

[2011年4月8日現在 ACCU作成]

東日本大震災の地震・津波で大きな被害をうけた東北3県には、多くのユネスコスクールがあります。

宮城県では気仙沼市33校、白石市6校、仙台市5校、岩沼市1校、多賀城市1校、丸森町2校、角田市1校、栗原市1校、大河原町1校、富谷町1校のユネスコスクール。学校自体が大きな被害をうけたユネスコスクールがありますし、高台にあり学校の被害はそれほどではなくとも、児童生徒の家庭を含む地域が甚大な被害をうけていることは、沿岸部に共通です。もちろん、内陸部でも大きな被害がでています。

ユネスコスクールが1校の岩手県、また、まだユネスコスクールがない福島県についても、被害が甚大であることには、変わりはありません。

ユネスコスクールは、laboratory of ideas とよばれ、地域とともに、さまざまなことに取り組んでいる学校です。被災した地域のユネスコスクールのこと、その学校がある地域のこと、これからユネスコスクールになることもあろう被災地の学校とその地域のこと、これらについて思いを共有することに、この活動がつながっていければと願っています。

学用品(文房具)支援については、受け入れ体制が整った宮城県と岩手県を対象にまず開始させていただきます。各大学では、ニーズとご支援の「調整弁」の役割を果たしながら、継続的に支援を行います。

みなさまからお寄せいただいた学用品(文房具)は、ユネスコスクールであるとなにかかわらず、教育委員会や地元のESD関連組織との調整により必要に応じて学校に配布します。福島県については、ひきつづき、支援の仕組みを模索中です。

呼びかけ人は、学用品(文房具)支援活動でみなさんにご協力を呼びかけている品物以外の学用品について、別途、企業等に支援の働きかけをおこなっています。



世界180カ国で約9000校がASPnetに加盟して活動しています。